

第4節 業種別の調査結果

1 建設業

建設業からの排出量は1,042千tで、県全体の排出量の32%を占めている。

排出量を種類別にみると、がれき類が842千t(81%)で最も多く、次いで汚泥が113千t(11%)となっており、この2種類で全体の92%を占めている(図2-4-1)。

建設業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-2に示すとおりである。

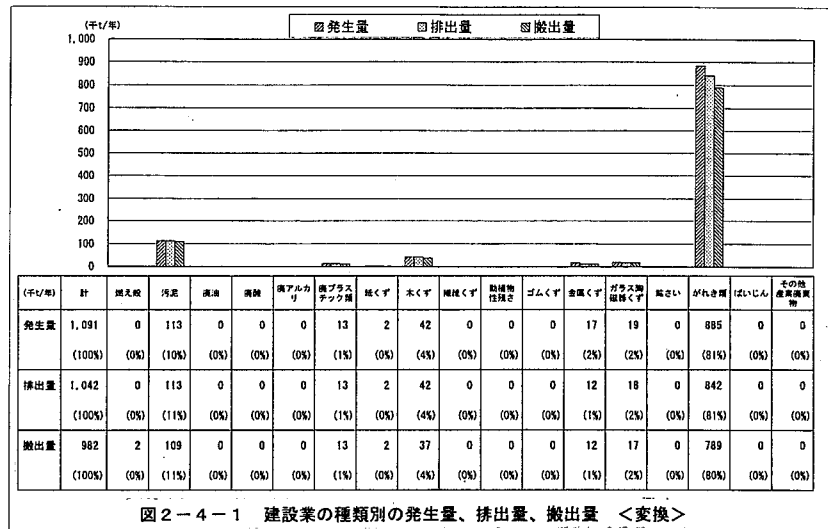
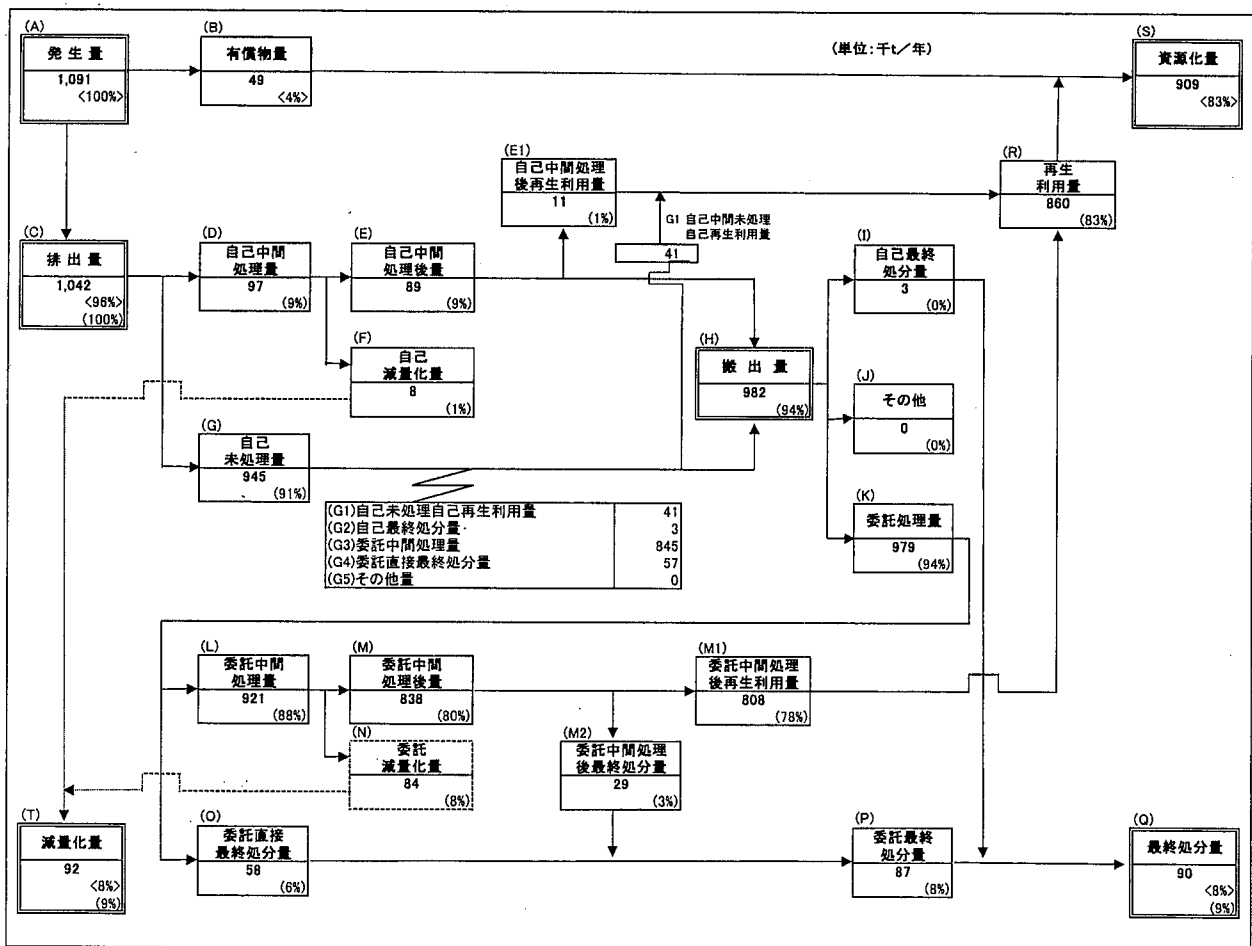


図2-4-1 建設業の種類別の発生量、排出量、搬出量 <変換>



注: <>内は発生量に対する割合。()内は排出量に対する割合。

図2-4-2 建設業からの排出及び処理状況

2 製造業

製造業からの排出量は1,779千tで県全体の54%を占めている。

排出量を種類別にみると、汚泥が1,184千t(67%)で最も多く、以下、鉱さい108千t(6%)、廃プラスチック類が83千t(5%)となっており、これら3種類で全体の77%を占めている(図2-4-3)。

製造業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-4に示すとおりである。

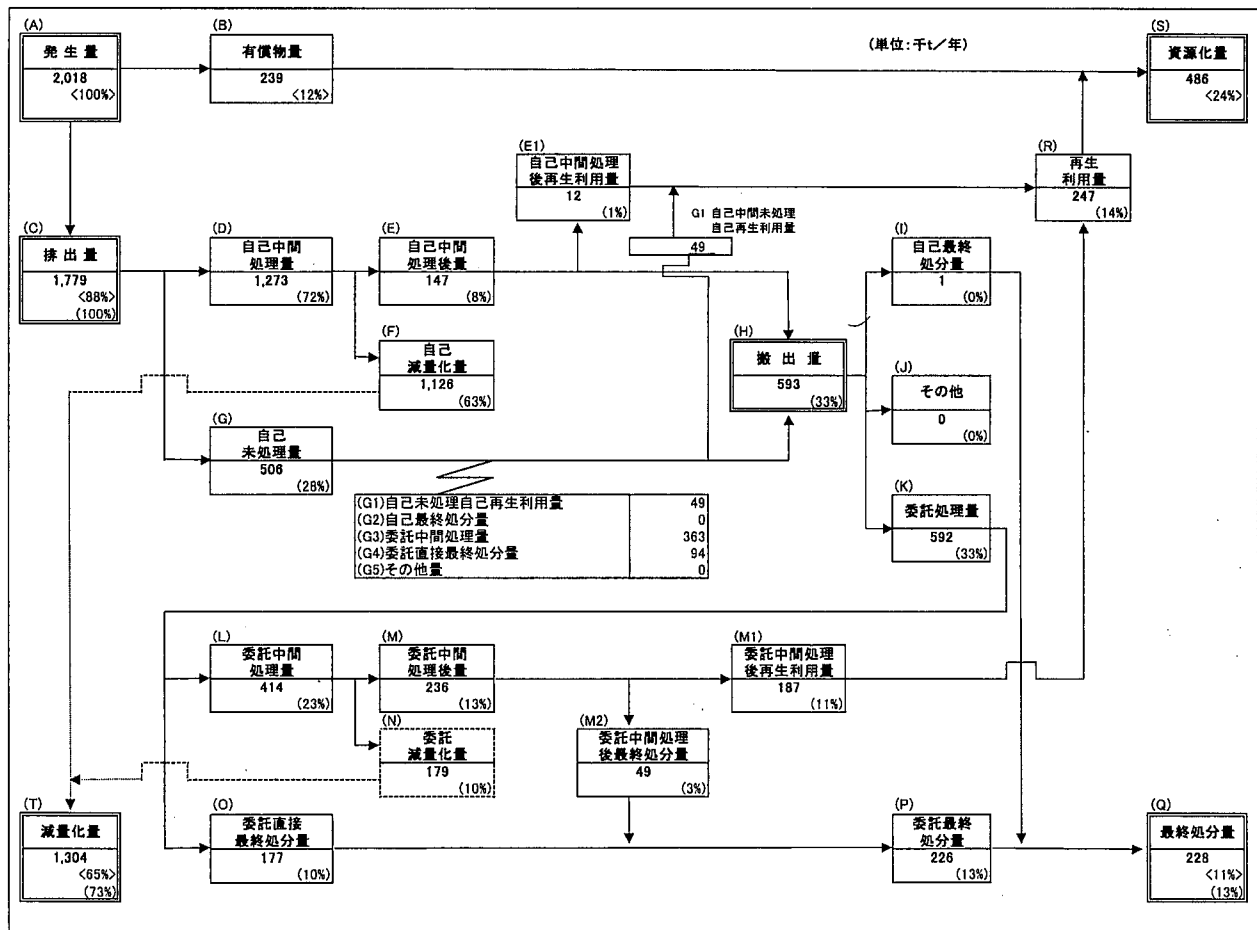
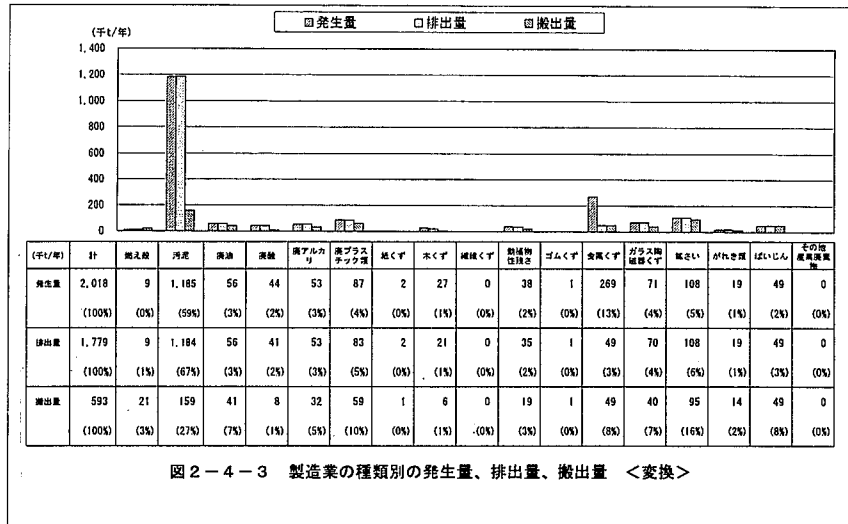


図2-4-4 製造業からの排出及び処理状況

3 電気・水道業

電気・水道業からの排出量は403千tで、県全体の12%を占めている。

排出量を種類別にみると、汚泥が397千t(99%)で最も多く、次いで、ばいじん3千t(1%)となっている(図2-4-5)。

電気・水道業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-6に示すとおりである。

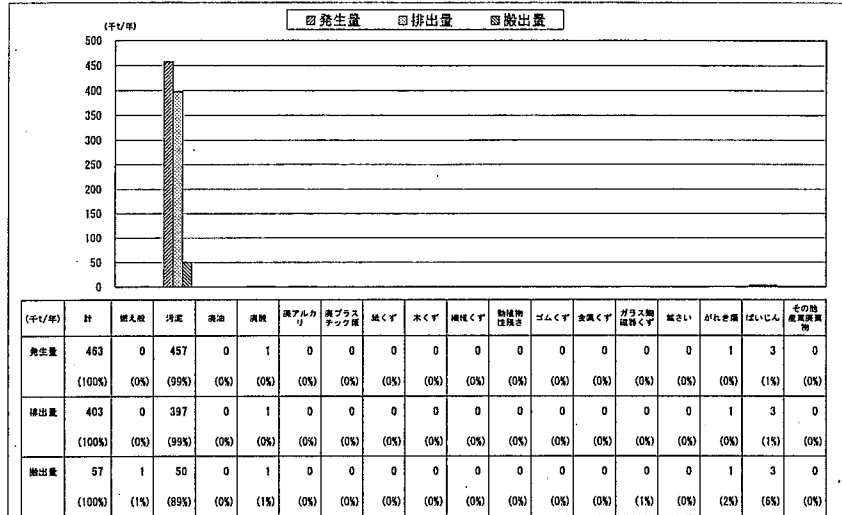


図2-4-5 電気・水道業の種類別の発生量、排出量、搬出量 <変換>

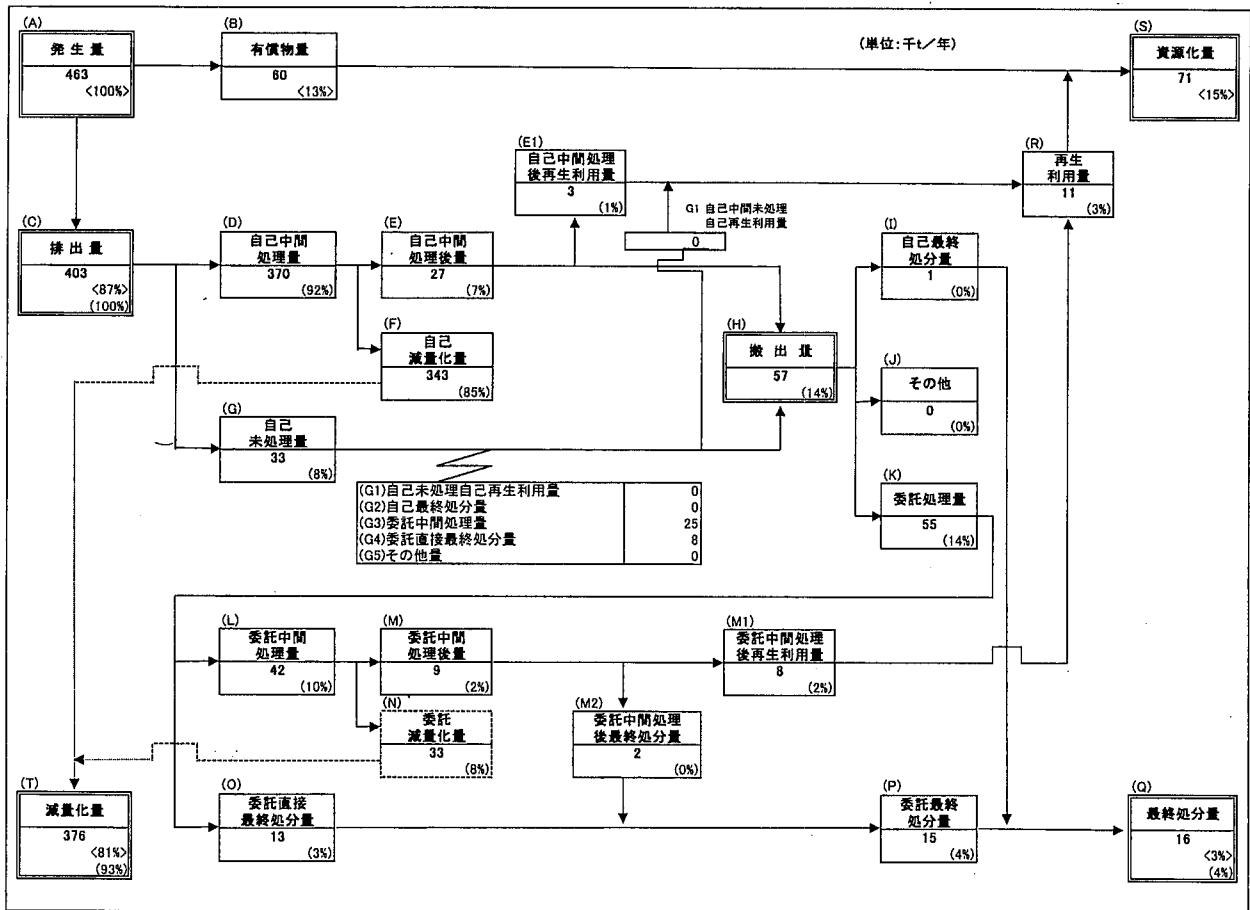


図2-4-6 電気・水道業からの排出及び処理状況

4 運輸・通信業

運輸・通信業からの排出量は12千tとなっている。

排出量を種類別にみると、廃プラスチック類5千t(41%)で最も多く、以下、がれき類が4千t(35%)、金属くず1千t(11%)となっている(図2-4-7)。

運輸・通信業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-8に示すとおりである。

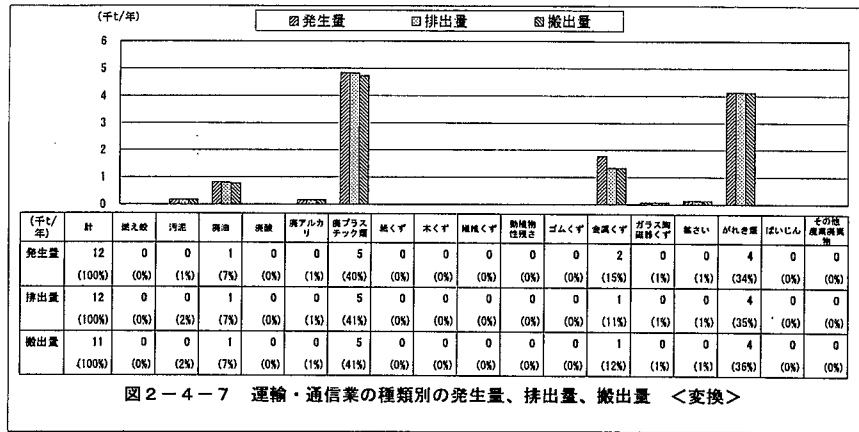
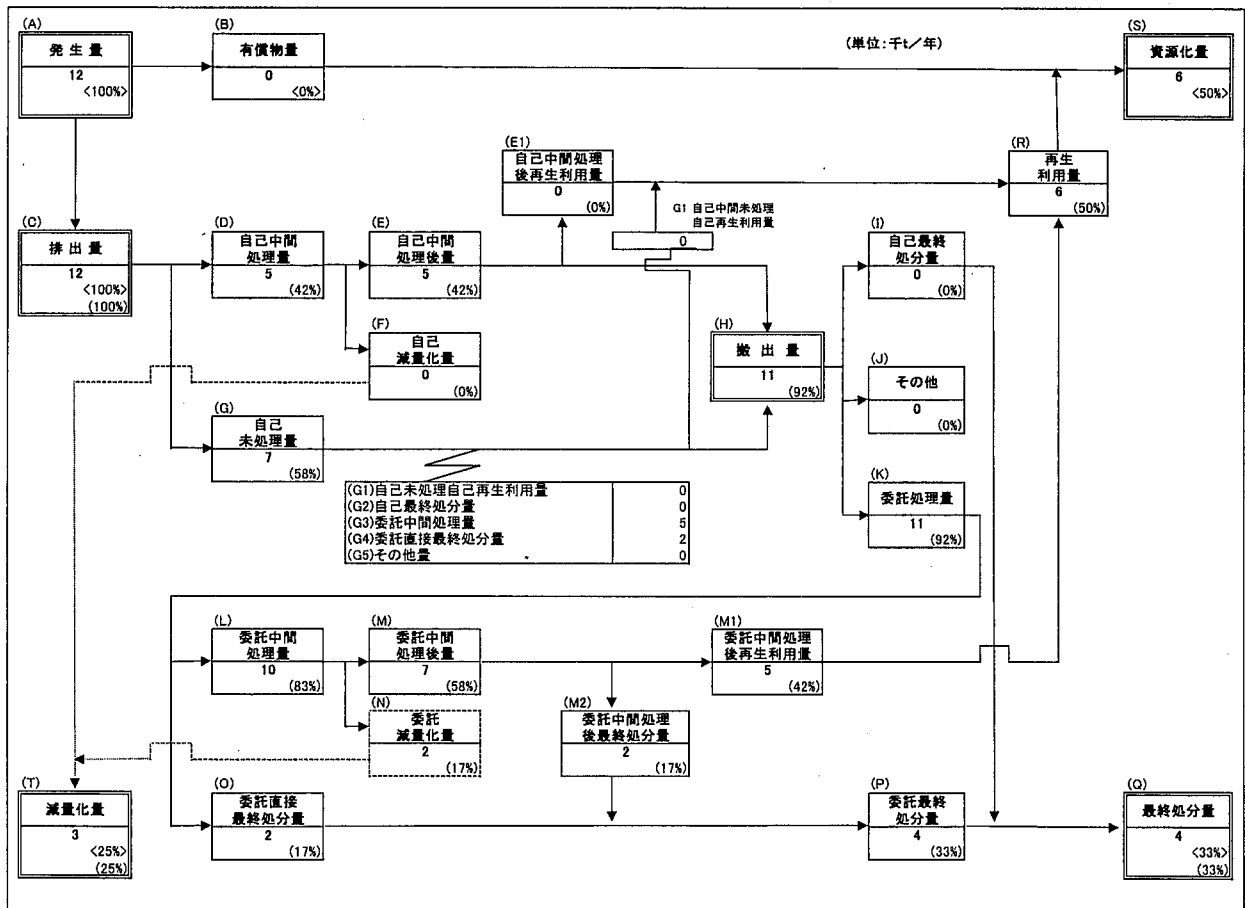


図2-4-7 運輸・通信業の種類別の発生量、排出量、搬出量 <変換>



注: < >内は発生量に対する割合。()内は排出量に対する割合。

図2-4-8 運輸・通信業からの排出及び処理状況

5 卸・小売業

卸・小売業からの排出量は、29千tとなっている。

排出量を種類別に見ると、廃プラスチック類が14千t（49％）で最も多く、以下、汚泥5千t（18％）、がれき類4千t（13％）、廃油3千t（10％）となっている（図2-4-9）。

卸・小売業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-10に示すとおりである。

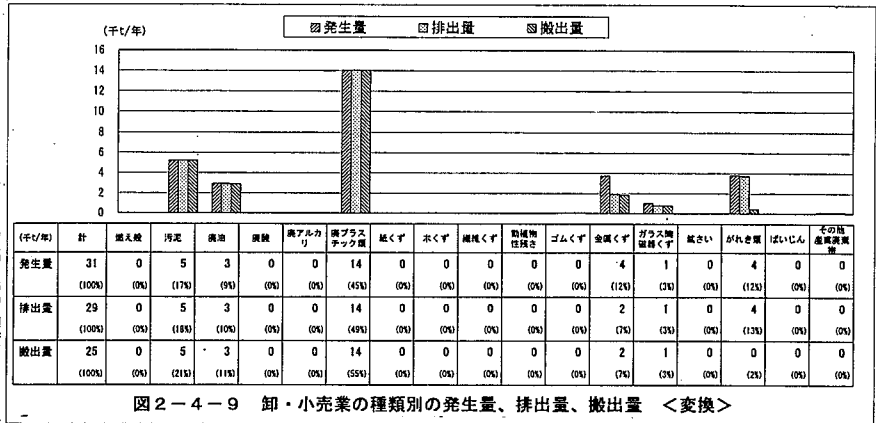


図2-4-9 卸・小売業の種類別の発生量、排出量、搬出量 <変換>

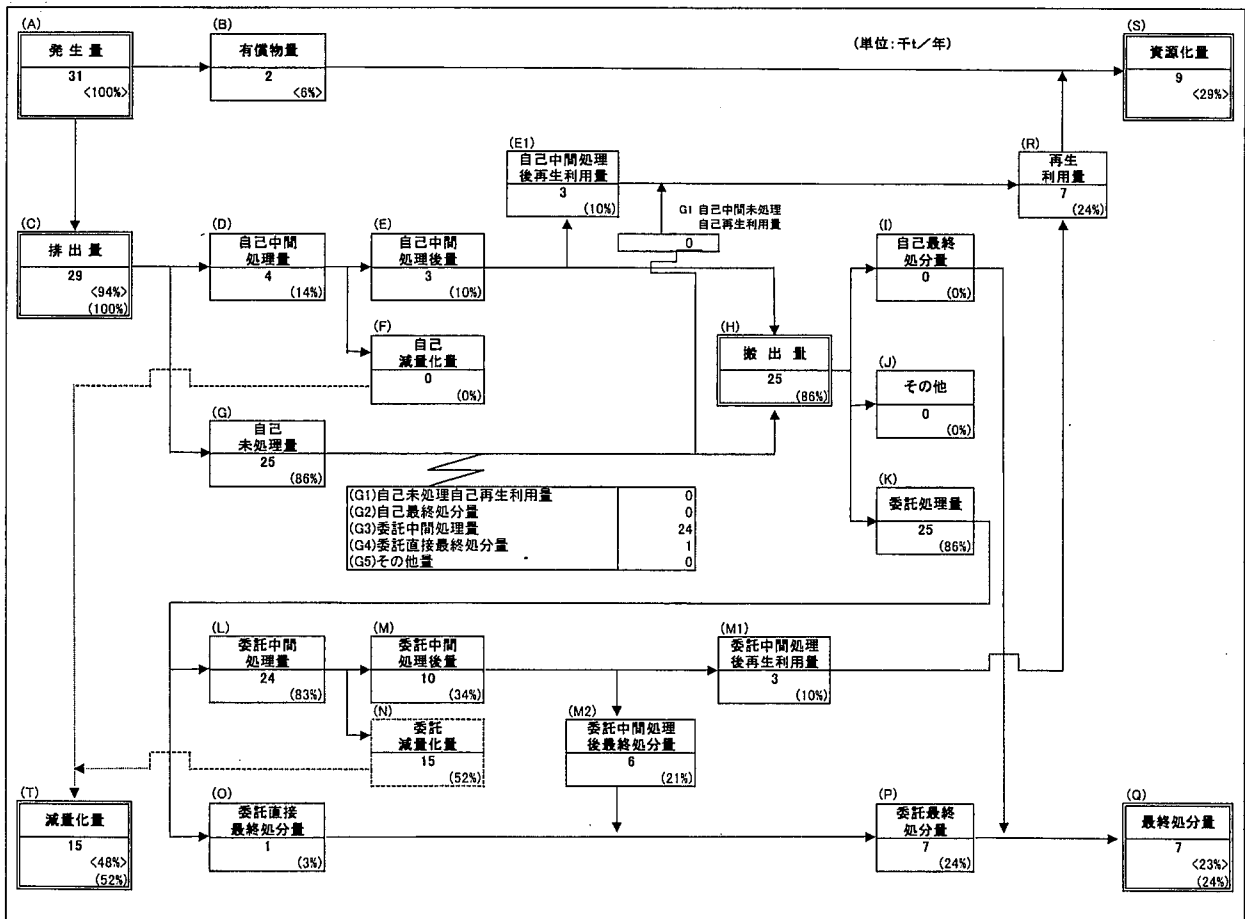


図2-4-10 卸・小売業からの排出及び処理状況

6 サービス業

サービス業からの排出量は2.8千tとなっている。

排出量を種類別にみると、金属くずが0.8千t(27%)で最も多く、以下、廃プラスチック類が0.7千t(25%)、汚泥が0.6千t(22%)、廃油が0.5千t(19%)となっている(図2-4-11)。

サービス業から発生する産業廃棄物の排出及び処理状況は、図2-4-12に示すとおりである。

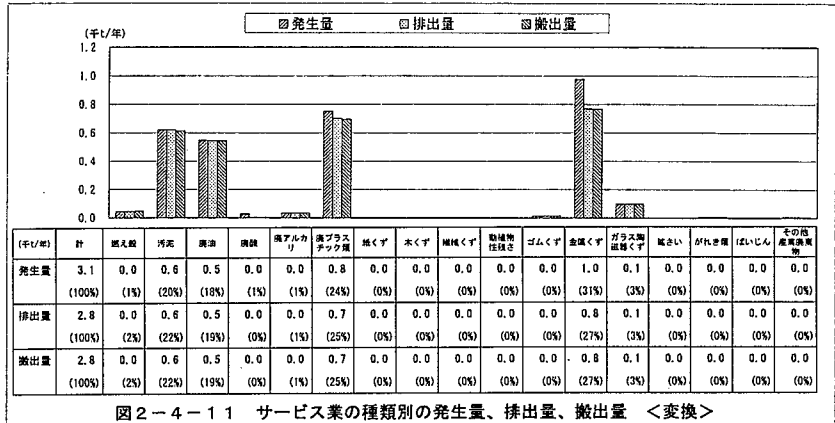
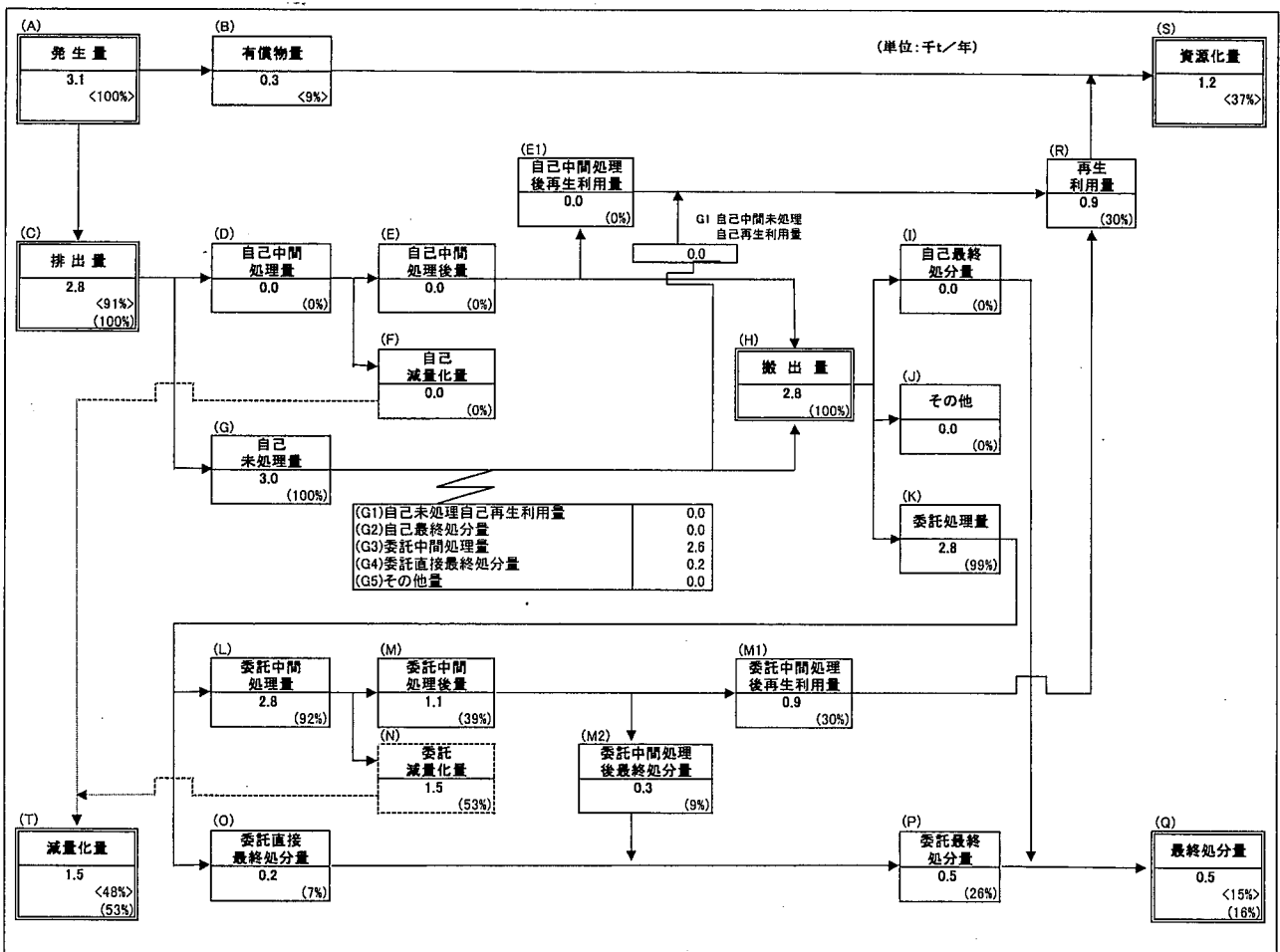


図2-4-11 サービス業の種類別の発生量、排出量、搬出量 <変換>



注: < >内は発生量に対する割合。()内は排出量に対する割合。

図2-4-12 サービス業からの排出及び処理状況